

令和3年5月19日

## 令和2年度静岡県立看護専門学校自己評価結果

## 1 評価概要

対象期間	令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
実施時期	令和3年3月
評価者	本校職員26名
評価方法	「学校自己評価表」を用い、アンケート形式により、9大項目、55小項目について、4段階で評価を実施した。 （適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）

(次ページあり)

## 2 評価結果

### (1) 教育理念・目標

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>・静岡県内、特に東部地域において県民の医療の担い手として活躍できる質の高い看護師及び助産師を育成することを責務としており、また、看護、助産を学ぶ人に主体的に学習する環境を整え、生命の尊厳と人間を尊重し、高い倫理観を持ち、豊かな感性を培い、看護、助産を実践する人を育てることを教育理念とし、看護教育を実践している。</li></ul>
自己評価	5項目の評価平均2.46点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価平均は2.46点であり、平均的な評価であった。</li><li>・「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」、「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の評価については、半数以上が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li></ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会のニーズを踏まえ、カリキュラム改正において教育目標等を含め柔軟な見直しを行ない、引き続き、県内で活躍できる看護師、助産師を育成していく。</li><li>・学校の理念・目的については、入学式、始業式、後援会等、日常の学校生活の中で周知を踏むように工夫していく。</li></ul>
委員 評価 ・ 意見	

## (2) 学校運営

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>・看護師、助産師に必要な専門的知識、技術及び態度を修得させ、地域社会に貢献できる幅広い見識を持つ心豊かな専門職業人を育成することを教育目的とし、学校運営を行っている。</li></ul>
自己評価	8項目の評価平均 2.50 点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価平均は 2.50 点であり、平均的な評価となった。</li><li>・「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」や「運営組織や意思決定機能が明確化され、また有効に機能しているか」、「情報システム化等による業務効率化が図られているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li></ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・運営方針に沿った事業計画の策定や、運営組織や意思決定機能については、運営会議等を柔軟に開催し、適切に運営していく。</li><li>・また、日々の教務業務の効率化による業務改善に、引き続き取り組んでいく。</li></ul>
委員 評価 ・ 意見	

### (3) 教育活動

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に医療の現場に必要な実践力等を確実に修得させ、静岡県民の医療の担い手となる質の高い看護師及び助産師の育成を目標に看護教育を実践している。</li> </ul>
自己評価	<p>14 項目の評価平均 2.48 点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)</p>
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は 2.48 点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発」、「関連分野の関係施設等との連携による新カリキュラム作成」、「教員の先端的な知識・技能等の修得、指導力育成の取組」、「教員の能力開発の研修」等については、約 6～7 割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のカリキュラムの見直しを行い、新カリキュラムの作成を行う。今後、更に地域の関係施設との連携に取り組んでいく。</li> <li>・教員の研修については、現在も、研修等に積極的に参加できる体制を整備している。引き続き、研修機会を積極的に創出していく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	

#### (4) 学習成果

現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師及び助産師人材を送り出す必要条件となる国家試験については、低学年から国家試験を意識した学力強化を行うほか、最高学年では不得意分野の対策を強化することで全員の国家試験合格を目指している。</li> </ul>
自己評価	<p>5項目の評価平均 2.50 点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)</p>
分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価平均は 2.50 点であり、平均的な評価となった。</li> <li>・「退学率低減の対策」、「卒業生・在校生の社会的活躍や評価の把握」、「卒業後のキャリア形成効果の把握や学校教育への活用」については、約 6～7 割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li> </ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後の不適性による退学を低減させるために、オープンキャンパス及び学校説明会を開催する。</li> <li>・また、入学後も、学生生活が充実できるようにするため、人間関係や学習への悩み等の相談体制を整えている。令和 3 年度からは、カウンセラーを 1 名から 2 名（男性、女性各 1 人）に増やし、相談日も月 2 回から 4 回に増やすことで、多岐に渡る相談に対応できるようにした。</li> <li>・卒業生の社会的活躍の把握や卒業後のキャリア形成効果の把握、これらの学校教育への活用について検討し、教育活動の改善に引き続き取り組んでいく。</li> </ul>
委員 評価 ・ 意見	

## (5) 学生支援

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>・高校から就職説明会の要請があった場合に出前説明会を開催する等、高校生への周知に取り組んでいる。</li><li>・令和2年度から高等教育修学支援新制度の対象校となっているほか、専門実践教育訓練給付金制度の指定校となっているなど、経済的な支援体制を整えている。</li><li>・卒業後、卒業生からの相談にも個別に対応を諮っている。</li></ul>
自己評価	10項目の評価平均2.50点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価平均は2.50点であり、平均的な評価となった。</li><li>・「卒業生への支援体制」、「社会人のニーズを踏まえた教育環境整備」「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」の評価が低い。特に、「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」については、約8割が、“やや不適切”または“不適切”と評価している。</li></ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員が高校に出向き学生に説明する機会を設けるなど、高校等と連携した取組みを引き続き実施していく。</li><li>・また、卒業生への支援体制についても、相談への個別対応をとおし、引き続き、卒業生への支援に取り組んでいく。</li></ul>
委員 評価 ・ 意見	

## (6) 教育環境

現状	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、4月から5月を臨時休校とした。学校再開後も、病院等で臨地実習の受入れが困難となり、受入れ先が見つからない場合には学内実習で補完するなど、学生に、学習の遅れが出ないように、取り組んだ。</li><li>・感染予防策として、教室内の人数制限から講堂を教室として使うための整備を行ったほか、各教室等に飛沫防止のためのアクリル板やビニールシートの間仕切りを設置した。また、遠隔授業を実施するため、校内にインターネットのアクセスポイントを設置したほか、パソコンやタブレット端末等を整備し、コロナ禍における校内の環境整備を行った。</li></ul>
自己評価	3項目の評価平均 2.44 点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価平均は 2.44 点であり、平均的な評価となった。</li><li>・「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」、「学内外の実習施設等の教育体制の整備」については、6～7割が、“やや不適切”または“不適切”と評価してる。</li></ul>
取組 ・ 改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・施設・設備の整備については、耐用年数や故障等のタイミングで、順次入れ替えを実施していく。</li><li>・コロナ禍の感染症対策としては、健康管理のほか、消毒、うがい、マスクの着用、県をまたぐ行動の制限、アルバイトの禁止等、様々な観点から引き続き取り組んでいく。</li></ul>
委員 評価 ・ 意見	

### (7) 学生の受入れ募集

現状	・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オープンキャンパスをWeb開催で実施した。
自己評価	3項目の評価平均2.51点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	・評価平均は2.51点であり、平均的な評価となった。 ・「学生募集活動の実施」や「学習募集活動における教育成果の提示」については、約5割が、“やや不適切”または“不適切”と評価している。
取組 ・ 改善策	・学生募集活動については、ホームページ等の広報媒体を活用するほか、オープンキャンパスや講習会等の機会をとおり、引き続き、教育成果を含めた本校のPRを積極的に行っていく。
委員 評価 ・ 意見	



(8) 法令等の遵守

現状	・令和2年度から学校関係者評価委員会を実施し、委員の意見を踏まえた学校運営の改善に取り組んでいる。
自己評価	4項目の評価平均2.63点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	・評価平均は2.63点であり、概ね適切との評価となった。 ・各評価項目で概ね適正の評価を得ているが、「自己評価の実施と問題点の改善」については、約5割が、“やや不適切”または“不適切”と評価している。
取組 ・ 改善策	・「自己評価の実施と問題点の改善」については、引き続き、学校関係者評価委員の意見を踏まえた学校運営の改善を行っていく。
委員 評価 ・ 意見	

### (9) 社会貢献、地域貢献

現状	・令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、公開講座の開催や研修会の実施等は行うことができなかった。
自己評価	3項目の評価平均2.17点 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)
分析	・評価平均は2.17点であり、“やや不適切”から“不適切”の評価が多い。 ・特に、「地域に対する公開講座等の積極実施」については、“やや不適切”または“不適切”が8割を超える結果となった。
取組 ・ 改善策	・地域の方が参加できる公開講座の開催や、地元自治体や団体と連携した研修会の実施、防災訓練への参加などに取り組んできている。本校は地域の医療人材の育成を行っていることから、社会貢献や地域貢献等の取り組みについて、今後も継続して取り組んでいく。
委員 評価 ・ 意見	